



# 徳成寺 寺比りお片版 第142号 2018年10月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

「今日までの人生、上出来でございました。これにて

おいとまいたします。」5/28 朝日新聞「語る—人生の贈りもの—」

の連載をこういう言葉で締めくくった樹木希林さん。本文中には、

「これだけ長くがんと付き合っているとね、『いつか死ぬ』じゃなくて

『いつでも死ぬ』という感覚なんです。でも借りていたものをお返りするんだ

と考えると、すごく楽ですよ。」と述べています。自分の身体は自分のものだと

考えていたそうですが、最近はこの身体は借りものなんだと思うようになった

そうです。それを仏教では「如来より賜りたる信心」と教えました。自分

の身体や人生を私物化するから苦しまないといけないとも聞こえますね。

一発行責任者—  
住職  
大山健児  
坊主  
大山ひとみ



\*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

## 大山超世の耳を澄ませば

お世話になってます、長男です。

お陰様で香川に帰ってから1年になりました。続けられたのはひとえに温かく見守って下さる門徒さんのおかげです。ありがとうございます。

さて、10月の初めに3泊4日の研修で久々に本山にお参りしました。以前のかわら版で修練の話をしましたが、今回の研修はそれよりも更に日程が少ない上に議題が難解な内容だった為、とても大変でした。

しかし、研修で集まった全国各地の若手のお坊さんの方々と、同じテーマに向かって話し合うという経験は中々得難いので、二年目も良いスタートが切れるのではないかと感じました。

写真は今回の訪れた本山の様子です。少し肌寒くなって来たせいかピリッと身を引き締めるようなそんな空気を感じました。

